

平成30年度 泉北地域水防災連絡協議会 議事概要

- 日時 : 平成30年5月29日(火) 14:00～15:15
- 場所 : 泉北府民センタービル 1階 大会議室
- 構成機関 : 協議会構成員
- 議事
 - (1) 泉北地域水防災連絡協議会規約改正について
 - (2) 協議会(2月6日開催)、行政WG(5月10日開催)の結果報告
 - (3) 泉北地域の防災・減災に係る取組方針(案)について
 - (4) 構成機関の防災・減災の取組紹介(意見交換)
 - (5) 泉北地域の河川砂防施設の整備、維持管理等について
 - (6) 平成30年度大阪府水防計画の改正
 - (7) 段階的に発表する防災気象情報の活用

■ 開催状況



■ 協議会結果

- Ⅰ 議事(1)の規約の改正内容を説明、規約改正について協議会です了承
- Ⅰ 議事(2)の協議会及び行政WGの結果報告を説明、協議会で確認
- Ⅰ 議事(3)の行政WGで議論を重ね作成した「泉北地域の防災・減災に係る取組方針(案)」について説明を行い、協議会です了承
- Ⅰ 議事(4)の取組紹介及び意見交換(以下のとおり)

■ 取組紹介及び意見交換の発言概要

- Ⅰ 市域では度重なる豪雨により、幾度と浸水被害が発生してきたこともあり、市域の府管理河川の改修を進められてきた。この度、ボトルネックであった区間の河川改修が完了、尽力いただき感謝
昨年度より水防対応の習熟を図るため、市職員、消防団、消防署が連携して市域河川の氾濫想定した水防演習を実施、今年度も実施予定。
今後は、協議会でも広域的な水防演習などの検討を願いたい。

- Ⅰ 平成28年に公表された大和川浸水想定区域図では、浸水想定が広域になる。昨年の台風第21号時、多くの方に避難勧告を発令したが、避難者は勧告対象者に対して1%未満。また、避難所確保など住民の避難行動への課題。市では、学識者の意見を伺いながら住民の避難シミュレーションを実施するなど、住民の適切な避難行動の検討を進めている。また、浸水想定エリアの住民へ適切な避難行動を住民に促すための説明を行っていききたい。
- Ⅰ 昨年の台風第21号で大きな被害があったことから、市広報で「災害記憶を風化させない」をテーマに特集を組んだ。特集に際し、被害にあわれた方に取材したところ「被害を受けた人の気持ちを逆なでしたくない」との切実な意見があり、市民へ災害を伝えること、被害にあわれた方への対応など、災害対応の難しさを痛感したところ。また、防災だけでなく防犯面への重要性などの意見もいただいた。市では、この6月広報にも災害時の行動や避難情報の意味などを掲載するなど、住民の防災意識の向上を図りたい。
- Ⅰ 市では、要配慮者利用施設管理者を対象に市域の災害リスクや防災情報の入手方法、避難情報の意味の説明、避難確保計画作成や訓練を呼び掛ける説明会を実施。昨年度からは、洪水や津波浸水想定エリアの施設と連携して、避難訓練を実施。訓練では消防職員から施設職員へ利用者を垂直避難させるための実演を行い、実際に施設職員が利用者役の消防職員を抱きかかえ、垂直避難させる実働訓練を行った。今年も違う施設で行う予定であり、こうした取り組みを続けていきたい。
- Ⅰ 毎年1回、地震や津波などの大規模災害を想定した町全域での防災訓練を実施。訓練には陸上自衛隊、消防などの防災機関のほか、町の全自治会、自主防災組織なども参加、災害救出救助訓練や火災を想定した住民でのバケツ消火訓練など実践的な訓練を行った。この5月には、津波浸水想定エリアの自治会及び自主防災組織による避難訓練を実施。今後も町全体の防災力向上を図るとともに、地域の自発的な訓練実施の支援をしていきたい。
- Ⅰ 国管理河川で設置する協議会での活動事例を紹介。一般の方が作成した防災マップを応募いただき表彰する活動、地域の方が主体となりタイムラインを作成、また、作成したタイムラインによる図上訓練を実施する活動など、様々な取り組みを進めている。こうした取り組みはホームページ上でも紹介しているので参考いただきたい。また、昨年の台風第21号時のホットラインの効果検証や国管理河川が氾濫危険水位を超過したとき、メール等を通じて浸水想定エリア内の方へ伝える「プッシュ型」の情報配信を進めている。防災情報の強化として、低コストで設置や維持管理できる「危機管理型水位計」の導入や運営を進めており、積極的な利用を願いたい。